

## 平成20年度第2回愛知県周産期医療協議会

### 議 事 要 約

日時：平成20年10月17日（金） 午後3時から午後5時

場所：名古屋第一赤十字病院 会議室1・2

#### 委員

出席者：石川委員、石田委員、一木委員、岩本委員、岡田(純)委員代理、岡田(節)委員、可世木委員、木村委員、倉内委員、小山委員、榊原委員、柴田委員、志水委員、鈴木(悟)委員、鈴木(千)委員、高橋委員、寺澤委員、早川(博)委員、二村委員、柵木委員、松澤委員、森川委員、山崎(俊)委員、山田委員、吉田委員

欠席者：山崎(嘉)委員

#### 事務局

出席者：愛知県健康福祉部児童家庭課主幹(母子保健グループ)、名古屋市子ども青少年局子育て家庭部子育て支援課長、名古屋第一赤十字病院第四小児科部長、コロニー中央病院産婦人科医長

欠席者：愛知県健康福祉部児童家庭課課長(母子保健グループ)

#### オブザーバー

出席者：中島先生、小口先生、家田先生、田中先生、長井先生、鈴森先生、松原先生、早川(昌)先生、加藤先生代理、大野先生

欠席者：山本先生、河井先生、福田先生、篠原先生、多田先生、佐橋先生

司会者：名古屋第一赤十字病院第四小児科部長

議長：石川会長

#### 1 石川会長あいさつ

吉田技監あいさつ

#### 2 議事

##### (1) 平成20年度愛知県周産期医療情報システムについて

##### 疾患別母体搬送基準について

- \* 前回の協議会を受けて、疾患別母体搬送基準のアンケートを行いました。全施設の回答が提出されましたらホームページ上で公開することを検討しています。
- \* アンケートで精神疾患を有する妊婦の取扱い項目の追加の提案があり、受入可能になるのは名古屋大学・名古屋市立大学になると思うため2つの施設を対応可能としたいが、如何か。
- \* 現状では、精神疾患の症状の軽い患者は診察しているが、精神疾患はどこまでの範囲を指すのか。
- \* 入院を要するコントロールが難しく対応に苦慮する患者。
- \* 名大の精神科では、精神疾患については基本的には現在かかっている主治医にコントロールしてもらい、入院時に緊急を要する場合のみ対応するような体制をとっている。
- \* 不穏になった際に対応可能な医療機関があると知っていれば、地域の医療機関としては助かる。
- \* 精神科医不在を理由に不応需という選択を与えると、できない医療機関ばかりになってしまう。
- \* 精神疾患があっても、お産の際は必要な場合は受けざるおえない。
- \* 精神科の項目については、後ほど改めて各施設に問い合わせますので、精神科と相談の上回答ください。

#### 県民向けホームページへの開示の拡充について

- \* 協議会も発足より10年を向かえ、ホームページへのアクセスを増やす為に、デザイン等を変更したい。
- \* 応需情報等を県民に向けて開示してはどうか。
- \* メリットは、県民へのアピールになることと、関係者ログインの際のID・パスワードの入力が不必要になることと、県民の目にふれることで、応需情報の入力が頻繁になり活性化される。
- \* 応需情報は医療機関向けのものなので、現状の運用でも十分ではないか。
- \* 豊橋の産科医院の場合は応需情報を見るまでもなく、高次周産期医療施設は1箇所しかない為、まずは豊橋市民病院に連絡しているため、あまり利用していないかもしれない。
- \* この件については保留とし、今後も検討していきましょう。

#### 分娩取扱い施設へID・パスワードを配布報告及び現在の利用状況について

- \* 前回の協議会で話題にあがったとおり、応需情報をはじめとした愛知県周産期医療情報システムの有効活用のために愛知県の分娩施設166施設に対し、ID・パスワード設定票を事務局から再配布しました。
- \* 166施設中施設は74施設が登録済みで、92施設は新規登録した。今後とも、同システムを地域の産科医院にも積極的に利用していただきたいと願っているので、皆様もご協力のほどお願い致します。
- \* 応需状況の更新にご協力ください。協議会等の出欠のレスポンスもホームページ上でお願いしています。

#### (2) 平成20年度研修会の報告と今後の予定について

##### 既に行われた研修会

【平成20年6月7日(土)(西三河南部医療圏)安城更生病院】

- \* 新生児心肺蘇生法講習会を開催し、約30名の参加がありました。

【平成20年9月27日(土)(尾張医療圏)愛知県心身障害者コロニー中央病院】

- \* 新生児心肺蘇生法講習会を開催し、約30名の参加がありました。

##### 今後の開催予定

- \* 海南病院(海部医療圏)主催で平成21年2月7日午後2時30分に「周産期と療育」の演題で研修会を開催予定。
- \* トヨタ記念病院(西三河北部医療圏)主催で平成21年2月21日(土)に研修会を予定。
- \* 豊橋市民病院(東三河北部・南部医療圏)主催で平成21年2月~3月に「2008年の症例のまとめと症例検討」の研修会を予定。
- \* 宮市立市民病院(尾張西部医療圏)主催で平成21年2月~3月で研修会を予定。
- \* 名古屋第一赤十字病院(名古屋医療圏)主催で平成21年3月7日(土)に新生児心肺蘇生法講習会(Aコース)を開催予定。
- \* 今年度の研修会の担当施設の名古屋市西部医療センター城北病院(名古屋医療圏)名古屋第二赤十字病院(名古屋医療圏)も予定が決まりましたら、ご連絡ください。
- \* 新生児心肺蘇生法講習会は年3回~4回の開催を予算上予定していますので、開催を希望する施設は事務局までご連絡下さい。

##### 新生児心肺蘇生法の拡充

1. 新生児心肺蘇生法インストラクターコース参加の交通費補助

- \* 今年度は現在までに3名の申込みがありました。(9月23日愛育病院での講習会)
- \* 今年度は11月23日及び3月20日に東京の愛育病院にて同コースが行われるので、ご希望の際は事前に事務局までご連絡ください。

2. 新生児心肺蘇生法インストラクター名簿

- \* 協議会内の関係機関に28人のインストラクターがみえることが分かりました。
- \* 名簿は事務局で管理していますので、インストラクターと連絡したい際は事務局までご連絡ください。

3. 新生児心肺蘇生法人形の貸し出し

- \* 未熟児用と成熟児用の新生児心肺蘇生法練習用人形の貸し出しをしています。希望される場合は、事務局までご連絡ください。

(3) 平成20年度愛知県周産期医療調査・研究事業の中間報告について

調査研究事業応募用紙について

- \* 調査研究事業の複数年度にまたがるものもあるので、複数年度のテーマに即した応募用紙にし、複数年度のテーマについても年度ごとに計画を立てて、応募用紙を提出する。
- \* 改正案が出来ましたら、後日ホームページに掲載し、ダウンロードして応募できるようにする予定。

中間報告

【フリースタイル出産をした産婦の分娩第 期・第 期における体験の様相】

愛知県立看護大学

高橋 弘子

- \* 現在、倫理委員会に諮っており、来月には分かりますので、次回ご報告します。

【NICU 退院児における広汎性心身障害者の早期診断プログラムの開発】

コロニー中央病院

山田 恭聖

- \* 詳細については資料 2 - 2 を参照ください。
- \* M-CHAT の不通過数は修正月齢が進むにつれ、P 群より T 群のほうが不通過数が多い。
- \* 周産期合併症が原因で NICU に入院する正期産児は、早産児以上に社会性の発達に注意する必要がある。
- \* NICU に入院する正期産児は 18 ヶ月で、社会性の発達を確認する必要がある。
- \* 1 歳でフォローを終えている患者のアンケートが取れてない側面もあり数字については取扱いを注意する。
- \* 低酸素脳症の疾患とそうでない疾患とを分けてデータを作成してもらえると産婦人科としては助かる。
- \* 疾患別のデータは 1 歳半のアンケートが十分集まってきたら、作成できる。

【愛知県における胚移植妊娠の実態調査：二次調査】

愛知県産婦人科医会

可世木 成明

- \* 詳細は資料 2 - 5 をご参照ください。
- \* 8 月末現在で、ART 協力施設 18 施設、登録数 1,703 例。
- \* この調査が ART を行う施設に対して、複数の卵を戻さないような精神的な圧力を与えている。
- \* 学会にも発表も検討している。

【NICU の利用率向上に関する検討】

名古屋第二赤十字病院

倉内 修

- \* 共同研究者の名古屋第二赤十字病院新生児科の田中太平先生を中心に行います。

- \* 前回の協議会でアンケート内容については再検討後、事務局と協議した上ですすめることになっていたが、共同研究者の先生と食い違いがあり、アンケートを再度作成し事務局に提出した上で、内容の調整が終わる前に、医療機関にも配送された。関係者の方にはご迷惑をおかけして申し訳ありませんが、再度、協議会にて内容を協議し、今後の対応を検討したい。
- \* 早産児自体は増えている現在、22 週前後について医療機関ではどのような治療方針をとっているのか知りたい。36 週～37 週で予定帝王切開をして呼吸障害で NICU に入院する患児が多いため、39 週以降での予定帝王切開をすすめるガイドラインが出来ているが、現状を把握したい。
- \* 現在は、アンケートの 4 割～5 割の回答がきている。
- \* 調査研究事業は愛知県周産期医療協議会の事業であり、愛知県の周産期医療の向上を目的とした内容や指針の作成につながるような調査研究報告にしてほしい。
- \* 予定帝王切開については、小児科医の立場としては可能な限り 39 週以降に実施を希望しており、産婦人科医の立場としては 39 週まで待っているうちに陣痛が来て緊急帝王切開になることを懸念している。予定帝王切開の週数を調べることに加えて、39 週で予定帝王切開を行う場合のトラブルがどれだけ起こっているか等も調べることで協議会として予定帝王切開の時期の指針を示すことが出来るのでないか。
- \* 22 週前後の治療方針のアンケートは、愛知県の周産期医療に資するのか。
- \* 22 週前後の治療方針は指針のようなものもなく、現場で悩んでいる医師もいるので、多くの病院の現状を集めて、知ることがそのような医者の特長につながると思った。
- \* 回答する立場からすれば、22 週の治療方針の考え方はケースごとに様々であり、判断が非常に難しく回答に悩む。また、協議会名で来ている以上、気軽には回答しづらい。
- \* 現状では結論には結びつきにくいですが、アンケートは仕切りなおすのか。
- \* 受け取った医療機関は、協議会名でアンケートが出されている以上、協議会のアンケートであると認識して回答しており、回答を反故されるのは腹ただしく、4 割についても解析されるべき。
- \* 後にこのような議論がおこるのは問題であり、協議会の事業として公的なお金を使用して行われるのであれば、内容が評価され、経理も含めてより明白により形を整える必要があるのではないか。
- \* もう一度、アンケートの提出を求めるのは施設の負担を増やし失礼にあたるので、いつの予定帝王切開が適切か等に焦点をあてたしっかりとしたアウトカムを出すこと（で事業）とする。

【愛知県における帝王切開率と前置胎盤発症の推移、およびその管理治療に関する実態調査】

名古屋大学医学部付属病院 早川 博生

- \* 詳細については資料 2 - 4 をご参照ください。
- \* 同テーマについては愛知県産婦人科医会の支援も受けており、協議会より承認を受けたなら、調査を行い、協議会に報告するとともに日本産科婦人科学会学術集会シンポジウムへも報告したい。
- \* 多胎の分娩をどうカウントするのか定義をはっきりしてほしい。
- \* 同テーマを認め、研究費はなしで、事業として行う。

(4) 平成 20 年度特別講演・調査研究報告会について

- \* 平成 20 年 11 月 15 日(土)午後 4 時から午後 7 時 30 分に名古屋第一赤十字病院内ヶ島講堂で開催します。
- \* 特別講演会は「大野病院事件の教訓と今後の課題」というテーマで福島県立医科大学医学部産科婦人科講座教授佐藤章先生を招いて行います。

( 5 ) 報告事項

～以下非公開～

< 次回医療協議会開催について >

\*平成20年度第3回周産期医療協議会を、平成21年3月27日(金)「名古屋第一赤十字病院 会議室1・2」にて開催します。